



ごあいさつ

常務取締役 小林 賢 司
Kobayashi Kenji

日頃は、当社製品をご愛顧賜りまして厚く御礼申し上げます。

2021年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的に継続して猛威を振るい、各種経済活動が制限を受ける中、種々の社会変革が求められ、当社にあっては、ウィズコロナへの対応として、テレワークをはじめとした事業活動の変革を推し進めた1年でありました。

また、2021年度は、当社中長期計画「VISION2025」のスタート年であり、カーボンニュートラルに見られるような、環境・エネルギー分野における各種社会変化への対応や、DX推進・BCP対策などの社内体制強化を図りながら、基盤事業の体質を強化し、新規事業・新製品・新サービス創出による成長拡大に向けて、全社を挙げて取り組んできました。

さて、2021年6月には、日本政府により「2050年カーボンニュートラル宣言に伴うグリーン成長戦略」が策定され、当社事業においても、目標達成に向けた課題解決への取組みが求められる中、電力・環境システム事業分野において、SPSS^(*)（Smart Power Supply Systems）をはじめとするエネルギーソリューションの提供を通して、これら課題解決に貢献していく所存です。具体的には、蓄電池を用いた自立運転システムを軸とする地域マイクログリッドの実用検証や、当社の強みである系統連系技術を活かした大規模風力発電などに積極的に取り組みました。これらの取組みにより得られた知見を用いて、市場拡大が見込まれる、分散型エネルギー源（DER）市場に適用して参ります。

また、ビーム・プラズマ事業分野においては、急加速するEV化に対応した半導体・次世代半導体製造用イオン注入装置や、高精細基板の大型化に対応したフラットパネルディスプレイ製造用イオン注入装置等の開発に取り組んでおります。加えて、さらなる長寿命化や摩擦低減などに寄与する新しいDLC（Diamond Like Carbon）膜の開発など、多方面での製品開発を進めております。

研究開発部門や事業部門のみならず、コーポレート部門を含めた全社での取組みとして、SDGsの達成や、アフターコロナを見据えた事業基盤整備を進め、VISION2025のコンセプトである「日新一新」のもと、企業改革に挑戦して参ります。

今回の技報では、2021年の技術開発の成果を特集するとともに、一般論文として5つのテーマについて直近の開発状況を掲載いたしました。是非ご高覧を賜り、ご意見・ご指導を頂戴できましたら、幸甚に存じます。最後になりましたが、ステークホルダー皆様の益々のご繁栄をお祈りし、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

(*) 「SPSS」は日新電機(株)の登録商標です。